

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1213
施設名	にじのおうち保育園
施設所在地	東京都世田谷区桜上水2-11-1
法人名	社会福祉法人 福音寮

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

テーマ「自然（木）」

- ・木材の特性を活かした共同製作を行う
- ・材料の確保など家庭と連携しながら準備を行う
- ・製作したものを実際に使って遊ぶことで成功体験を味わう

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

(子ども)

- ・廃材を活用した製作遊びを楽しむ。
- ・作ったもので遊べるか試したり改良をして楽しむ姿が見られていた。

(園)

- ・子どもの興味に合わせた環境作りや活動の計画を行い、提供していく。

## 2. 活動スケジュール

- ① (6月) 3園合同で行ったzoomを用いた年長交流を通して水にどんなものが浮かぶかの実験を行う。
- ② (9月) 牛乳パックを活用した船を作り、実際にプールに浮かべてみる。
- ③ (9月) 沈まない船が作りたくてクラスで話し合い、園長に話し合いの内容を共有した。
- ④ (9月) 園にあった木材を釘で止めて小さいイカダを作り水に浮かべて乗ることが出来るか試す。
- ⑤ (9月) 林業の専門家を呼び木材の特性について話を聞き丸太を水に浮かべてみたりした。実際に木を組み合わせてイカダの土台を作った。
- ⑥ (10月) 完成したイカダを親子行事の場で保護者に見せて発表を行った。

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・牛乳パック以外に製作に使えるような物を用意し自由に取り出して使えるようにした。
- ・自由に作ったり個人で試すだけでなくクラス全体での活動としても話し合ったり製作して楽しむようにした。
- ・実際にイカダを作るにあたっては木材・紙やすり、ねじ、2ℓペットボトル80本程度

#### 4. 探究活動の実践

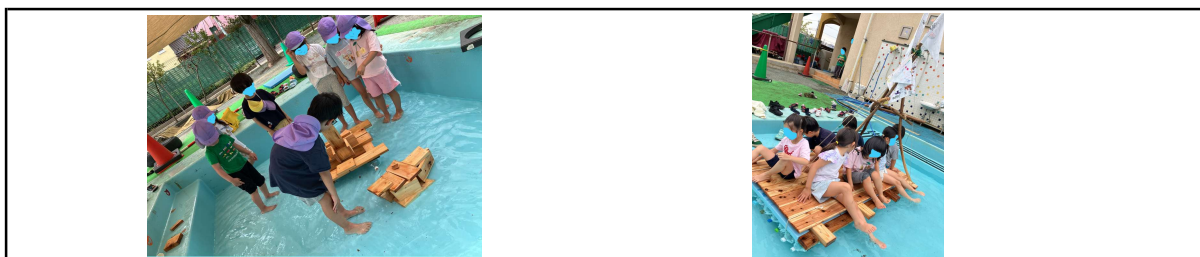
##### <活動の内容>

・木材の切れ端や浮く素材を使い、「浮かぶもの・浮かばないもの」への興味から船づくりへと発展した。子どもたちはペットボトルや木の板材を組み合わせながら試行錯誤し「どうしたら浮かぶか?」「乗れるようにするにはどうすればよいか?」などを考え、友だちと相談しながら製作を進めていった。また作ったイカダに実際に乗る経験を通して浮力やバランスが深く関係していることへの気づきが深まり、素材や作り方、イカダの上での姿勢を工夫する姿が見られた。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

・製作中は「もっと大きくしたい」「次はこうしてみよう」と期待を膨らませながら友達同士で意見を伝え合い協力しながら取り組む姿が見られた。一人乗りの船を作った際は子ども同士で「ここ押さえてね」「手伝うよ」などと声を掛け合い助け合う姿も見られた。また完成だけを目的にするのではなく「こうすると進みやすい」「ここをつなげるとイカダが安定する」など試したことを子どもたちの間で共有しながら活動を広げていく様子があり探求を楽しむ姿が見られた。



#### 5. 振り返り

##### <振り返りによって得た先生の気づき>

・子どもたちは自分で作ったもの実際に乗れる経験を通して達成感を味わい「もっとこうしたい」という意欲につなげていた。また遊びの中で年下児にも声をかけ完成したイカダに乗せてあげたり役割を分担する姿が見られ友だちと協力しながら考える力や伝える力の育ちを感じた。

・さらに、木材は形や加工の仕方を変えることで様々な用途に使えることに気づき、素材そのものへの興味や関心も深まっていった。子どもたちが自ら試し、失敗を重ねながら工夫をしていく過程を大切にすることで主体的な学びにつながったと感じる。